

〔枕草子〕雪たかう降て、今も猶ふるに、五位も四位も、色うるはしう若やかなるが、略あこめの紅ならずば、をどろ／＼しき山ぶきを出して、からかさをさしたるに、風のいたく吹て、よこざまに雪を吹かくれば、すこしかたぶきてあゆみくる、

〔更科日記〕あそび三人、いづくよりともなく出来たり、五十ばかりなるひとり、二十ばかり成、十四五なると有、いほのまへに、からかさをさ、せてすへたり、

〔中右記〕元永二年四月廿二日丁酉、從朝天陰、小雨間下、賀茂祭也、略予馳參院御所、三條丸欲有御見

物之處、天陰雲時有大雨、略中過御棧敷間、或乞指、笠於下人、或入笏於懷中、作法奇恠也、此中行重宗

實指、笏取笠、尋常也、六月二日丁丑、午後天陰雨下、御産五夜也、略中、有啜粥事、長實朝臣參寢殿中

央間、敷圓座民部大夫五位七人列立、此間雨下、各指笠、略下

〔源平盛衰記〕鹿谷酒宴靜憲止御幸事

鹿谷ニハ軍ノ評定ノ爲ニ、人々多集テ一日酒盛シケリ、略中庭ニハ用意ニ持タリケル傘ヲアマ

タ張立タリ、山下ノ風ニ笠共吹レテ倒ケレバ、引立引立置タル馬共驚テ、散々ニ驛踊、略下

〔平家物語〕のぶつらかつせんの事

御ぐしをみだり、王、中略六條の助大夫宗信からかさもつて、御供仕る、

〔源平盛衰記〕四十三知盛船掃除附占海鹿并宗盛取替子事

清水寺ノ北坂ニ、唐笠ヲ張テ商ナフ僧アリ、慈ニ僧綱ニ成タリケレバ、異名ニ唐笠法橋ト云ケル

者ガ許ニ、略下

〔承久軍物語〕四川のはたに山田の次郎まげた、か。ら。か。さ。さ。、せ、いくさのげちして立たりけるよろひの袖に、うらかく計にいつけたり、重忠あやうくや思ひけん、からかさをとらせてだんのうへ、あがりけり、